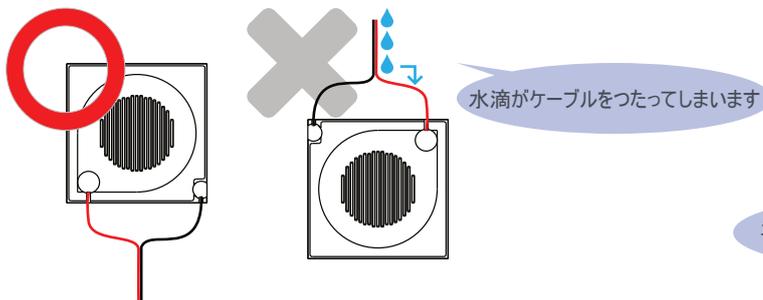


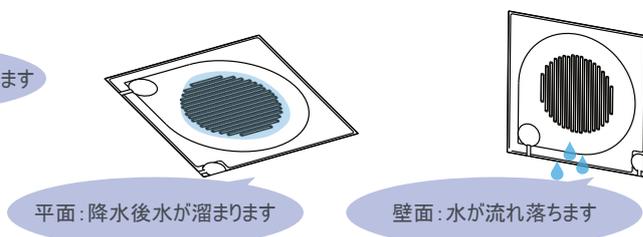
ACMセンサの取り扱いについて

ケーブルが下側に来るように設置します



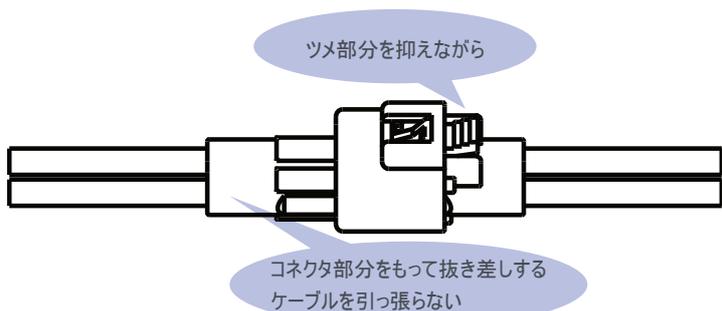
ケーブルを上向きに設置した場合、雨がケーブルをつたってセンサ面に水滴が付着する場合があります。雨上がり後に水滴がセンサ面に付着すると、実際には雨が降っていないにもかかわらず高い出力を示す場合があります。

平面設置・壁面設置では濡れ方が違います



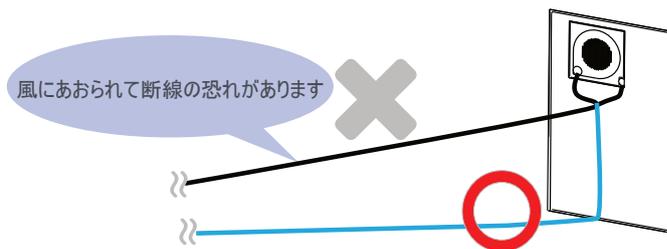
ACMセンサを平面に設置した場合、降雨後も水がセンサ面に溜まります。この場合、水が乾くまで高い出力が継続します。壁面に設置した場合は雨が流れ落ちるため比較的早い時間でセンサ面が乾き、出力が落ち着きます。評価したい環境に応じて設置する向きを検討してください。

防水コネクタの抜き差しは慎重に



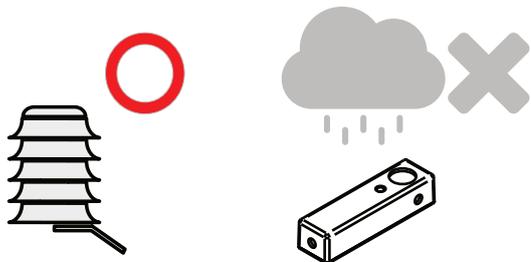
防水コネクタ仕様の場合は、コネクタの抜き差しは慎重に行ってください。防水のために密閉性が高くなっています。ケーブルを持って引っ張るとコネクタ部で断線してしまいます。

ケーブルは壁や地面に這わせませす



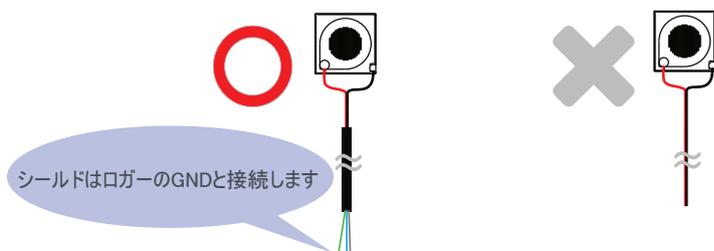
ケーブルの配線時には、壁や地面に這わせるようにしてください。空中に張った状態では、風にあおられてケーブルが切れたり、コネクタが抜ける可能性があります。

温湿度センサは直接雨のかからない場所へ



温湿度センサは直接雨のかからない場所へ設置してください。百葉箱やラジエーションシールドもオプションで取り扱っています。

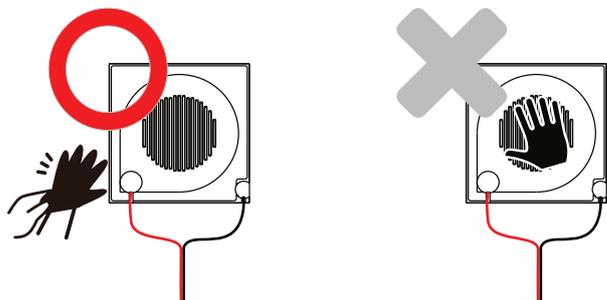
ケーブルを延長する場合はシールド線を使用



ACMセンサのケーブルを延長する場合は専用シールド線を使用してください。微小な電流を扱うため、ノイズの影響を受けてしまいます。シールド線のグラウンド(緑線)はロガーのGNDと接続します。グラウンド線は丸形圧着端子です。ねじとボルトなどを使用して接続します。

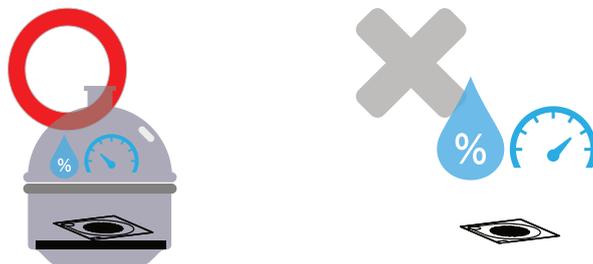
ACMセンサの取り扱いについて

ACMセンサは素手で触らない



センサは素手で触らないでください。手の皮脂などが付着して腐食します。
センサを触るときは必ず手袋をして、ケーブルかセンサの端面を持つようにします。

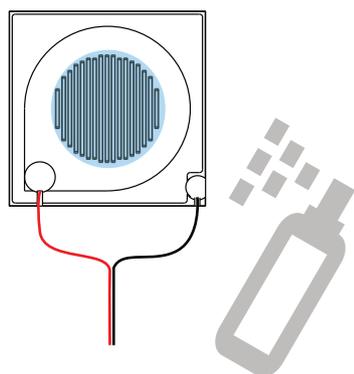
ACMセンサの保管はデシケータで



ACMセンサはデシケータ(防湿庫)の中で保管してください。
湿度の高い場所に放置するとセンサが腐食してしまいます。
短期の保管もチャック袋にシリカゲルを入れるなどして湿度を低くしてください。
またACMセンサ同士を直接重ねたり、擦れるとセンサに傷がついてしまいます。

ACMセンサの出力検査方法

1



脱イオン水の入っているスプレーで ACM センサ楕面に脱イオン水を吹きかけてください。
楕面がうっすらと濡れる程度でかまいません。

2

ACM DATA
CH1 = 10.0nA

ロガーのメニューより ACM DATA で ACM センサの出力を確認してください。
正常: 10nA~数 100nA。

水分をふき取った後に出力が 0.1nA 未満であれば正常です。

逆接続: マイナスの値

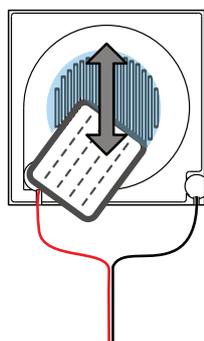
出力がマイナスの場合、逆接続の可能性が有ります。

断線、未接続: 値が数 nA 超えない場合

断線、未接続の可能性が有ります。

楕面に水分が十分に付着していないと 10nA を 超えません。

3



確認後はすばやくキムタオル、キムワイブなどの清潔な布で
楕面に沿って軽くこすり、水分をふき取ってください。

Corrosi
コロジー株式会社

〒104-0061 東京都中央区銀座7-17-5
TEL: 03-5565-1684 FAX: 03-3524-0508

E-mail: support@corrosi.com

<https://corrosi.com/>